

令和5年度公共事業再評価調査

担当課名 農地保全課

番号						
事業名	集落基盤整備事業		事業主体	静岡県		
地区名	朝霧高原地区		関係市町	富士宮市		
事業採択年度	平成 25 年度		計画期間	平成25年度 ~ 令和7年度		
再評価理由	事業採択 (H25) 後10年間に経過した時点で継続中		工事着手年度	平成 26 年度		
事業費 (百万円)	全体計画事業費		~R3年度	R4年度	R5年度見込	R6年度以降
	2,185		1,551	134	126	374
事業量	農業生産基盤					
	農道整備 3,846m		3,272 m	0 m	300 m	274 m
	農業用排水施設 140m		0 m	0 m	0 m	140 m
	ほ場整備 10.5ha		9.8 ha	0 ha	0 ha	0.7 ha
	農村生活環境					
	集落道整備 1,660m		751 m	400 m	300 m	209 m
	集落排水施設 387m		357 m	0 m	0 m	0 m
	営農飲雑用水 9,375m		7,281 m	900 m	600 m	594 m
事業概要	<p>(1)事業目的 本地区は、富士宮市北部に位置し、県下有数の酪農地帯であると共に、富士宮市の「フードバレー構想」を支える食の供給基地であるが、農業生産基盤及び生活環境基盤の整備が不十分であり、地域農業の発展に支障をきたしている。このため、農業生産基盤整備により豊かな食を供給する農地の生産性向上を図りつつ、営農飲雑用水などの農村生活環境整備により定住環境を整えることで、食の供給基地・朝霧高原の維持・活性化を図る。</p> <p>(2)事業内容 事業内容 受益面積 195ha ・農業生産基盤 農道整備 3,846m、農業用排水施設 140m、ほ場整備 10.5ha ・農村生活環境 集落道整備 2,731m、集落排水施設 387m、営農飲雑用 9,375m</p>					
事業の必要性等	<p>【視点1】 (1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地区は農業の担い手不足や高齢化が進み、一部地域では荒廃農地なども確認されている。こうした状況から、農地基盤や農村生活環境の整備を行い、農業振興や活発な農村集落活動の推進対策を行っており、次のとおりに変化している。 ・猪之頭地区では、地場産品の直売所「わいわい市」の誕生や、地域振興に取り組む猪之頭振興協議会が発足するなど、都市と農村の交流が拡大している。また、富士宮市では移住定住にも力を入れており、平成28年度以降に8家族が移住している。 ・営農飲雑用水の更新事業では、整備により安定供給されるとともに、民地から公道に埋設ルートを変更したことで、日常管理する富士開拓農業協同組合の維持管理や点検等の軽減が図られている。</p> <p>(2)事業の投資効果 ・総便益 (B) : 142.22億円 ・総費用 (C) : 71.08億円 総費用総便益比 (B/C) : 2.00 経済的内部収益率 (EIRR) : 17.39%</p> <p>○農業生産基盤整備による農作業の効率化や農村生活環境整備による生活環境の向上</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和5年度末見込み) 事業費ベース進捗率: 82.9%(1,811百万/2,185百万) R6年度以降残事業量 事業量ベース進捗率: 91.9% 農道整備274m、農業用排水施設140m、</p>					
今後の事業の進捗の見込み	<p>【視点2】 これまでの事業実施に当たっては、道水路の整備における用地買収交渉や補償物件調査に不測の時間を要した。また、営農飲雑用水においてもパイプラインの埋設ルートの選定や貯水槽の位置及び構造の検討に不測の時間を要したため、事業期間が延長している。しかし、本地区の地元役員や関係者は本事業に協力的であり、円滑な事業進捗が見込まれている。 ・農道整備事業は全5路線のうち、4路線が整備完了し供用開始している。また残る農道3号路線は、令和5年度中に地元の合意形成と用地取得を行い、令和6年度に着工する計画である。 ・農業用排水路は、用水路1号に関して地元との合意形成は完了しており、令和6年度までの着工を計画している。用水路3号も富士宮市との協議は完了しており、令和5年度に着工する。 ・ほ場整備は完了し、活発な営農が行われている。 ・集落道整備は全4路線のうち、2路線が整備完了。残る集落道2号及び集落道4号は概ね用地買収、補償手続きが完了している。集落道4号路線は令和3年度、集落道2号路線は令和4年度に着工し、令和6年度の全線整備完了見込まれる。 ・集落排水路整備は整備が完了し、供用開始している。 ・営農飲雑用水更新整備は、80%以上の更新が完了、今後も継続して整備を進める。施設管理者である富士宮市や富士開拓農業協同組合との調整は完了している。</p>					
コスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>【視点3】 今後造成する農道工などの発生土を利用し、周辺牧草地への活用を計画しており、それに伴う運搬費の軽減により、コスト縮減を図る。</p>					
対応方針(案)	<p>(1)対応方針 本事業を (継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止) する。</p> <p>(2)理由 本事業は、農業生産基盤と農村生活環境を一体的に行うことで地域活性化を図るためのものであり、近年、農業の担い手不足や高齢化等により、必要性は一層高まっている。事業を通じ農業振興と地域振興が図られ、また投資効果も十分に見込み、事業継続への地元の意向も高く、今後の進捗も見込めることから、事業を継続する。</p>					

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地保全課

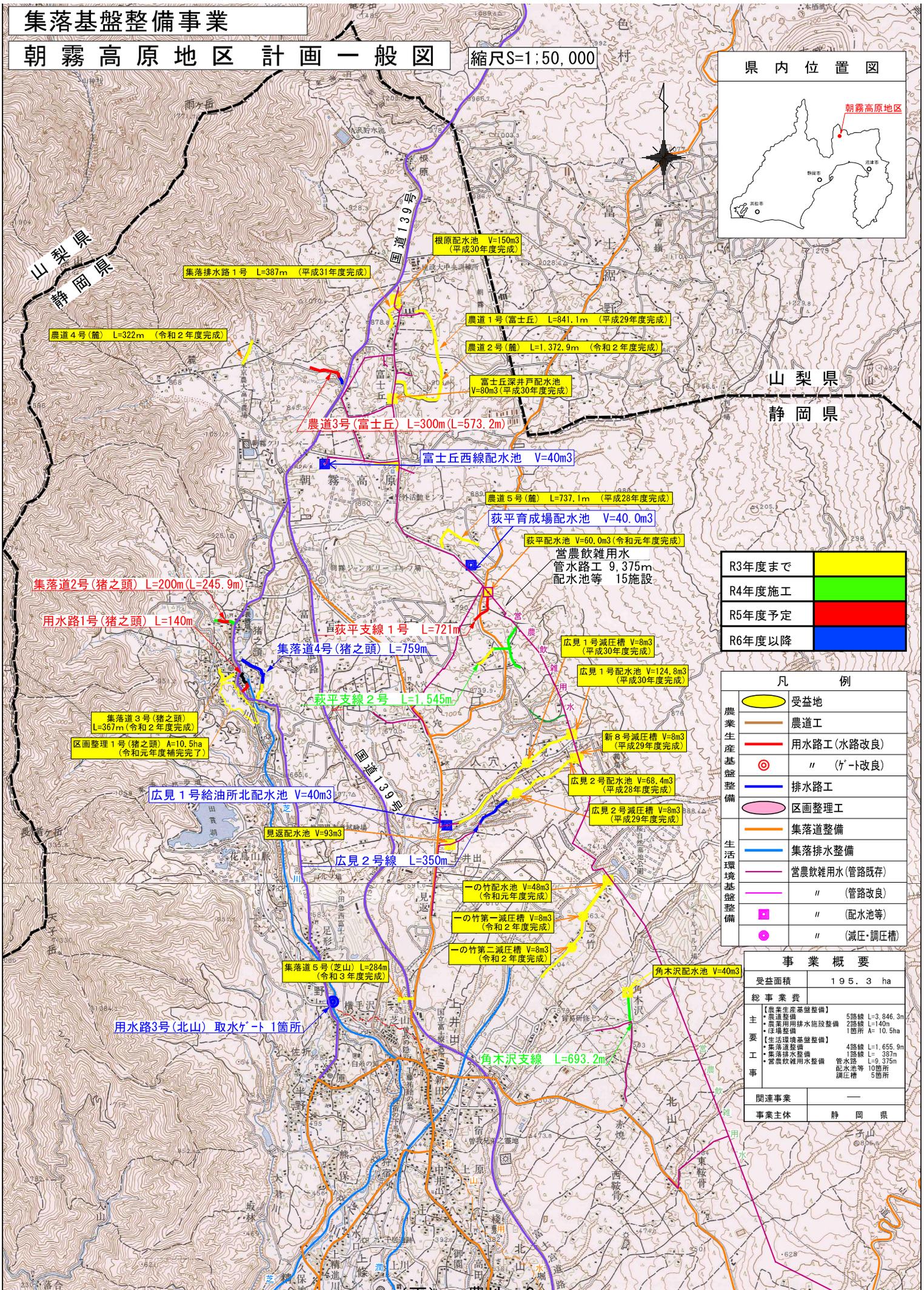
事業名	集落基盤整備事業	地区名	朝霧高原 (あさぎりこうげん)
効果の算定			
総 便 益 額 の 内 訳	作物生産効果 ほ場の区画整理を行うことにより、農地の生産が好転するため、作物生産量の増加する。 [便 益] = 3,513,574 千円		
	営農経費節減効果 ほ場の区画整理によって農地が大区画化し、農作業の省力化により農作業時間が短縮する。 [便 益] = 4,652,964 千円		
	維持管理費節減効果 農道、農業集落道及び営農飲雑用水の整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 [便 益] = △ 1,607,809 千円		
	営農に係る走行経費節減効果 農道の整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。 [便 益] = 850,187 千円		
	品質向上効果 農道の整備により、悪路輸送による生産物（野菜等）の荷痛みが防止され、品質向上の効果が発生する。 [便 益] = 5,662 千円		
	耕作放棄防止効果 [便 益] = 26,985 千円		
	災害防止効果（一般資産） 農業用排水路を整備することにより、異常気象時における宅地への浸水を軽減し、清掃費用や修繕に伴う損失などの費用の軽減が見込まれる。 [便 益] = 44,639 千円		
	国産農作物安定供給効果 [便 益] = 512,054 千円		
	生活環境改善効果 農業集落道の整備により、従来より道路幅が広がることで集落間を安全で快適に移動することが出来るため、生活環境が向上する。 [便 益] = 648,105 千円		
	生活用水確保効果 [便 益] = 4,131,740 千円		
	地域用水効果 [便 益] = 1,443,668 千円		
	総便益 3,513,574 + 4,652,964 + -1,607,809 + 850,187 + 5,662 + 26,985 + 44,639 + 512,054 + 648,105 + 4,131,740 + 1,443,668 = 14,221,769 千円		
	総費用の内訳	① 事業着手時の資産価額 1,451,539 千円（既施設の資産額を減価償却により整理） ② 当該事業費 2,332,834 千円（当該事業で整備する施設費用） ③ 関連事業費 千円（当該事業に関連する施設の費用） ④ 評価期間における再整備費 4,081,464 千円（工事期間+40年の評価期間内の再整備費） ⑤ 評価期間終了時点の資産価額 758,217 千円（工事期間+40年の評価期間終了時の資産額） 総費用=①+②+③+④-⑤ 7,107,620 千円	
総費用総便益比			
①総便益（B）	14,221,769 千円		
②総費用（C）	7,107,620 千円		
総費用総便益比（B/C）	= 2.00		

集落基盤整備事業

朝霧高原地区 計画一般図

縮尺S=1:50,000

県内位置図



R3年度まで	黄
R4年度施工	緑
R5年度予定	赤
R6年度以降	青

凡 例	
	受益地
	農道工
	用水路工 (水路改良)
	" (ゲート改良)
	排水路工
	区画整理工
	集落道整備
	集落排水整備
	営農飲雑用水 (管路既存)
	" (管路改良)
	" (配水池等)
	" (減圧・調圧槽)

事業概要	
受益面積	195.3 ha
総事業費	
主 要 工 事	【農業生産基盤整備】
	・農道整備 5路線 L=3,846.3m
	・農業用排水施設整備 2路線 L=140m
	・保場整備 1箇所 A=10.5ha
【生活環境基盤整備】	・集落排水整備 4路線 L=1,655.9m
	・集落道整備 1路線 L=367m
	・営農飲雑用水整備 管路 L=9,375m
	・配水池等 10箇所
・調圧槽 5箇所	
関連事業	—
事業主体	静岡県

●【視点1】事業の必要性等

＜農業生産基盤整備＞

ほ場整備



- ・小規模で不整形な農地を大区画することにより生産性向上と省力を図った。
- ・農地の有効活用が進み、地区外の大規模経営体も参入

農道整備



- ・狭小な農道を拡幅整備し、通作条件の改善、農業機械の大型化に寄与。更に来訪者の車の利便性も向上

＜生活環境基盤整備＞

営農飲雑用水施設



- ・老朽化した営農飲雑用水施設を更新することで飲料水等が安定供給される。
- ・管路を道路埋設することにより施設の維持管理・点検等が容易となった。

＜集落基盤整備による集落環境の活性化＞



霊峰富士がもたらす湧水で育った水稲は天皇献上米にもなった。



地場産品の直売所「わいわい市」がH25に誕生し、農家が野菜や加工品を販売



水稲だけでなく、落花生なども栽培され、落花生はピクルスに加工して販売(R1)

H28に猪之頭振興協議会発足(H30にNPOに移行)

移住定住促進活動



里山体験ツアーやファムトリップ(29～)を実施し都市農村交流を促進



H30にイベントを通じて都内レストランと“一社一村しずおか運動”協定締結



H28以降8家族が移住地域を挙げて歓迎会を実施

- ・当該事業を契機に、地域振興協議会発足、6次産業化、直売所の誕生、移住定住促進など様々なことが行われ、農業振興と地域振興が図られており、事業継続への地元の意向も高い

●【視点3】コスト縮減・代替案立案等の可能性

<農道整備>

○朝霧高原地区農道3号

今後整備を行う農道3号の建設発生土は、地区外へ搬出する計画であったが、近隣の牧草地への建設発生土の有効活用によりコスト縮減を図る。建設発生土の活用により牧草地の勾配が緩やかになる。

本事業のコスト縮減
△10,717千円

農道3号工事発生土 V=1,300m³

工事発生土処分費コスト
比較表

処分方法	運搬距離	処分費(m ³ 単位)	総コスト(千円)
有償処分	25 k m程度	2,300	13,500
牧草地造成	1 k m未満	0	2,783
縮減額			10,717

○建設発生土の活用により、凹凸があり勾配の急な牧草地が、勾配の緩やかな地形に改善が期待される

富士宮市根原牧草地

